

法華コモンズ通信

法華コモンズ仏教学林事務局

192-0051 東京都八王子市元本郷町 1-1-9 善龍寺内 FAX 番号 ⇒ 042-627-7227
ブログ <https://hokke-commons.jp> /メールアドレス hokkecommons@gmail.com

巻頭言

再歴史化する日蓮仏教とは何か

— 上原専祿の「日蓮認識の方法」を参考にして —

法華コモンズ仏教学林 事務局長 澁澤 光紀

私は、事務局担当として法華コモンズの運営面に携わっていますが、開設講座は出来るだけ受講するようにしています。先生方の講義は実に刺激的で、また受講生の皆さんも本当に熱心です。私も含めて六〇歳以上の受講者も多く、つくづく日蓮・法華仏教を学ぶ法華コモンズは「生涯学習の場」だと思えます。左上の絵は、スペインの画家・ゴヤが八〇歳の時に描いた自画像ですが、二本の杖で体を支えながら「*Aun aprendo*（おれはまだ学ぶぞ）」と書いてあります。ゴヤはこれを書いて二年後に逝去したそうですが、かくありたい！と常々念願しています。というのも、日蓮仏教の学びはインドレスでたぶん来世にも続きそうだからです。

法華コモンズの目標として「日蓮仏教の再歴史化」がありますが、この「再歴史化」という概念は、新々宗教という言葉も流行らせた西山茂理事長が創られたキーワードです。簡単に説明しますと、宗教はその教えを「時（歴史）」に適した形で蘇生させなければならぬ、日蓮仏教でそれを実現（歴史化）したのが近代日蓮主義の田中智学だったが、敗戦によりその国家主義的な日蓮仏教は否定（脱歴史化）された、したが



ゴヤの自画像

って現在また日蓮仏教は「今時」に生きる仏教として、蘇生（再歴史化）されなければならぬ、ということなのです。この再歴史化という営為は、一見は現代化と同じようですが安易に今様にするのではなく、時代を見据えながら現代の問題に積極的に



かわり解決していく、そうした教えとして蘇らせていくことだと思えます。実に大変な営為ですが、そう考えたとき、私が思い描く「再歴史化」のモデルとして最適なのが、歴史学者・上原専祿が構想した「日蓮認識の道」です。上原専祿は、晩年には「日蓮の分身」になることを目指して『日蓮遺文』の色読」にすべてを捧げていきますが、その日蓮認識には二つの異なった視座がありました。

その一つは、歴史学者として「日蓮＝世界史」としてグローバルに主知的に考えた日蓮認識の方法です。一般的にも宗教を認識するには、「信仰的」と「学問的」の二つのアプローチがありますが、上原氏も①「宗義学的→日蓮的方法」(信仰的・東洋的)と、②「西洋学的→世界史学的方法」(学問的・西洋的)の二つを立てます。そして①を自己の主体性、②を世界の客観性として互いに緊張関係をもって切磋琢磨し、その実践的検証を「日本」という場で行うことを③国民的(実践的)方法と名付けました。

しかし、こうした主知主義的な方法論に根本的反省を与えたのが、上原氏の奥様の逝去を契機とした「死者の実存」という他者認識です。上原氏に次々とおとすれた「過ぎ行かぬ時間」、「死者と生者の共闘」、「死者の主導」という、そうした理念を体験するなかで、上原氏はその主体観を逆転させて次のように述べます。

「歴史形成の主体としての死者。それから、歴史形成のメディアとしての生きている人間。これ

がありませんと、日蓮の信者だ、親鸞の信者だといってもですね、成り立たないんじゃないか。ほんとうに主体性を持ちうるためには、そのような永遠の存在として生き続けている、そういう死者と常識的にいわれるもののメディアになっていくこと、そのこそがむしろ今日の日本社会のような、社会悪、政治悪で汚れきっている、そういう社会のなかで自己の主体性を保持していくその道ではあるまいかと、こういうふう思うのですが。」(「親鸞認識の方法」著作集二六)

死者こそが歴史形成の主体であり、その死者のメディアとなってこそ主体性が得られる。上原氏は「日蓮の分身」になるとい考えに、こうした主体観の逆転によって到達します。それまでは日蓮を「私の分身」とする主知主義的認識だったのが、「日蓮の分身」になることで、「認識主体そのものの客観化をはかる」ことができるのではないかと、それによって「世界的現実の客観性」に迫れるのではないかと、このように上原氏は二つの視座を統合した「日蓮認識の道」を提示したのです。私は、法華コモンズの目指す「日蓮仏教の再歴史化」という営為も、この日蓮認識の道と重なっていると考えています。

上原氏は、「日蓮の分身」化のための『日蓮遺文』の色読を「捨身の営為」と述べましたが、しかし『日蓮遺文』だけ学べばよいとは言っていませんでした。これは、再歴史化という営為もまったく同じことですが、現代の問題に取り組まなければ日蓮認識の道もまたありえないのです。上原氏は

日蓮宗宗務院でおこなった「誓願論」講演でこう述べていました。

「いちばんいけないことは、日蓮宗としても、日蓮教学の方面においても、どのような今日の問題についても、それと取り組みうるほどの教義の深化ということがなされてはこなかった、ということ。話が逆になるみたいですが、日蓮認識の生きた視点と方法を獲得するためには、まず現実の問題を理論的にも実践的にも取り上げていき、その中で、日蓮聖人の教義や信仰として伝承されてきたものを、内側から検討しなおすという作業もいや、作業こそがー必要となってくる。」(「誓願論」著作集一六巻)

この言葉を意識してのことではありませんが、今年度の後期講座では西山理事長の発案による連続講座「これからの天皇制」が開講される運びとなりました。現在、宗教・社会学などの分野において第一線で活躍する六名のご講師による講座です。各先生方が現実の問題に取り組んだ、たいへん密度ある刺激的な連続講義になるかと思えます。私自身は「再歴史化」を意識しながら聴講したいと思いますが、一般向けの公開講座ですので、ぜひ多くの皆さまにご聴講頂きたいと思えます。最後に、この「これからの天皇制」講座のみならず、七頁に掲載されている後期講座欄をご覧いただき、ぜひご聴講申込を頂きますようお願いいたします。

岡田 文弘 先生

「仏教説話の世界」

報告 佐古弘純

法華コモンズ仏教学林では、平成三十一年度四月より、岡田文弘先生による「仏教説話の世界」(全四回)の講義をして頂きました。岡田文弘先生は、東京大学文学部言語文化学科卒、人文社会研究科(印哲)にて学位(文学博士)を取得され、「説話文学と仏教」の関連性や、翻訳協力などで活躍なされています。

岡田先生は、説話文学の定義を「口承を文献化した文学形態」と定義されました。今回の講座のコメントに「口伝えの話(口承文芸)がテキスト化する(書承文芸になる)ことで成立した説話文学は、同じく口承が書承に変化することで成立した仏教經典と軌を一にするとも言えます。そのため説話文学を検討することは、經典を中心とする現在の仏教について、その根底を考えることにすらつながり得る」とあるように、仏典研究の独創的な方法として説話文学を取り上げています。

第一回の講義では、益田勝美氏の説話文学論「口承と文字の出会いとしての説話文学」が「仏説の

口承から文字化にいたった仏教經典の成立」と軌を一として紹介され、經典成立における口承の役割に注目しました。民衆文芸と密接なかわりによつて生まれた釈尊の前身譚『ジャータカ』の多くが、漢訳經典や説話集に取り込まれ「仏教説話」として広まり、再び民衆文芸に還元していったことを説明されました。大乘經典における説話では、文学性が高い『法華經』の中でも特異な「常不輕菩薩」と「薬王菩薩」の挿話が後代へどう影響されたかを見ていきました。

第二回の講義では舞台は日本に移り、説話集編纂のブームでもあり末法思想の興隆が本格化していく平安中〜後期(西暦千年前後)に焦点をあてての講義となりました。民衆の仏教信仰教化を高めるため相次いで仏教説話が成立していくなか、その中心である恵心僧都源信の関わる講会(勸学会、二十五三昧会、靈山院釈迦講)が、情報交換の場(口承)であり、説話文献の編纂(文献化)においても大きな影響を与えていたことを明らかにされました。つぎに、中心人物である源信没後五十年以内に成立した伝記・説話の段階で既に超常的な現象や不思議な夢告などの逸話⇨人格化が見られ、その早さと必要性を強調されました。歴史上の人物としての源信と『法華験記』における非実在の尊格として賛嘆される源信を紹介した後、源信が妙音菩薩(東から西に移動した菩薩)に擬されるとに着目し、源信の西方往生を妙音菩薩の娑婆往詣に擬えるということは、娑婆即浄土の思想が描かれていると解説されました。

第三回の講義では、『法華經』を主題とした鎮源『法華験記』も源信の関わる講会がきっかけで生まれ、鎮源が説話編纂そのものを聖なる仏道実践としていたことを説明されました。『法華験記』の説話では、「行者対決説話」や「普賢菩薩説話」に関する話を取り上げ、内容と意図を見ていきました。『法華験記』は畜生をはじめとする人間以外の生き物や愚者・罪人などの存在の救済譚が多く収載されており、輪廻の中を流転し続けるもの達の救済世界を語る上で、法華信仰による成仏という『法華經』中心の仏教観を鎮源が強く抱いていたことを強調されました。

第四回の講義では、『法華験記』の成立背景・特色である「末法意識」、「遁世的な法華経持経者への着目」、「悪機濟度」という点が二百年後の日蓮の思想と親和性を感じることを説明されました。さらに「逆縁の濟度」に着目し、『法華験記』『法華伝記』と『法華經』『日蓮遺文』に共通しているところを示されました。次に『法華伝記』の成立年代を解説されたのち、「李遺龍」の説話が、日蓮『法蓮抄』に引用されているところから「日蓮は『伝記』を読んでいたことが確実」として、両者の共通点や日蓮の独自性を感じるところを述べられました。さらに『法華伝記』において「唱題」を勧める説話があることを取り上げて、一つの『法華伝記』の説話を比べて、両話ともに愚者・劣機が「唱題」していること、他者に功德をもたらす「利他行」としていることを指摘。こうした唱題の説話が、日蓮の「凡夫の唱題成仏」や「自利利

他」の宗教的理想につながっていったのではないかと説明されました。

通常の仏教学研究の視座からこぼれ落ちてしまう「仏教説話」は、文化的にも多大な影響を与えて民衆の間に根付いてきた「生きた仏教」であり、そうした生きた仏教がどのように人々に受け入れられていくのか、説話文献の時代背景や特色を考えることの重要性を教えて頂けたのが、この講座の魅力でした。

講義報告

都守基一先生

『観心本尊抄』拝読

報告 布施義高

本年四月より、新宿・常圓寺様祖師堂地下大ホールにて、都守基一先生による連続六回講座『観心本尊抄』拝読が執り行われている。『如来滅後五百歳始観心本尊抄』（以下、『観心本尊抄』と略称）は、日蓮聖人が龍口法難・佐渡遠流を経て到達された法華教学の真髓が開陳された書である。そこには、聖人の仏教研鑽成果が、聖人独自の宗教体験と結びれて信得された、本仏釈尊との感応道交の世界、すなわち、聖人の「信」の世界の極致、末法衆生救済の構図が余蘊なく開

示されている。

それ故に、今日の我々が『観心本尊抄』を学ぶことは、日蓮教学の最深部を理解して、一人ひとりが宗教的実践の糧を掴み取っていくことに他ならない。

今般、法華コモンズ仏教学林で『観心本尊抄』講義を開設するに当たり、講師をお引き受け頂いたのは、日蓮研究界の誰もが知る碩学、都守基一先生である。

都守先生のご講義は、平成二十八年度法華コモンズ仏教学林の都守先生ご講義受講者はよくご承知の通り）綿密なレジュメに則ってテーマの細部に亘って丁寧に講述して下さるスタイルである。研究史上の膨大な情報を的確且つコンパクトに整理・統合され、それらを吟味した上で、今日最先端レベルの所見に立って、全体的把握やテキスト読解上のポイント、更には今後の研究課題にまで言及して下さる。

今回は、それが、日蓮教学系講座の頂点、『観心本尊抄』において執り行われている。

都守先生は今般、全六回の企画に合わせて『観心本尊抄』講義カリキュラムを構成して下さった。

第三講までは、総論的に、『観心本尊抄』一篇の趣旨を多角的に分かりやすく解説。すなわち、同抄の書誌や末註の問題についての詳説。全日蓮聖人遺文中における同抄の位置、書名の意味、題号と撰号、撰述由来、叙述形式や全体の大意。そして、本抄の科段、すなわち序分・正宗分・流通分の三段の構成と核心的論点などを明快に論じて下

さった。

続いて、第四講以降では、読解上の注意事項を具に示しながら、貴重な語注を交え、序正流通三段それぞれを詳しく論じるという形を取られた。

講義全体の受講を通して再認識させて頂いたのは、やはり、日蓮教学研究の最前線で活躍される都守先生ならではの聞き逃せない重要なコメントが多く、本格的な学修を望む徒にはこの上ない講義である、ということである。

例せば、第一講では、立教開宗と題目弘通、一念三千と本門思想、本尊論からの視点、佐渡流罪前後の思想の進展に関する問題、人開頭と法開頭の問題、教観二門の問題、本化上行菩薩の自覚に関する問題、本抄撰述の環境、『三沢抄』『正当此時御書』との関わり、『観心本尊抄』以後の主要遺文で説かれる法門との関係性など、学徒必聴のポイントを、分かり易く示して頂いた。

講義は毎回、極めて濃密であり、二時間が短か過ぎると感じる程、瞬く間に経過していく。

初学者にとっても、専門的に日蓮研究を志す指導者層にとっても、正確な『観心本尊抄』理解を得る為の、絶好の機会を設けることができ、スタッフ一同、大きな誇りと喜びを感じている。

なお、本講座開講中、都守先生は、『観心本尊抄』の一字一句を精確に理解するためのテキストを新たにご自身で作成され、受講者全員に配布して下さいました。先生のご厚意に心より感謝申し上げます次第である。

日本宗教史の名著を読む

報告 西山明仁

平成二十九年度後期講座から続く菊地大樹先生の連続講座シリーズ「歴史から考える日本仏教」は、第一期が「山の宗教」、第二期が「顕密仏教」と話題のテーマを取り上げながら、緻密で斬新な講義によって日本仏教のあり方を解き明かして来られました。第二期の「日本宗教史の名著を読む」は、古代から現代までを論じた歴史学の六篇の代表的論文を精読し、文字通り日本仏教を歴史から考えるという画期的な試みとなります。

第一講は「大隅和雄「古代末期における価値観の変動」を読む」。先生はまず「学術論文を読む／書く」ための心得を明かされました。論文において書く／読むは一体で、①フレームを示す／掴む、②根拠を示す／見つける、③批判的に理解する、という三つの作業によって書く／読むが深まります。本論文の解説においても、この三つの作業に沿っての講義が進みました。本論文のむすびは「この序説としての古代末期の思想文化論（本論文）は、外なるものの発見が内なるものの深化として

展開した鎌倉新仏教論によって完成する」と述べられています。最後に「批判と論点」として、①「古代末期」という問題群、②本論文の現代的意義、③「古代末期」と平安鎌倉時代史、という3つの視点から今後の課題をクリティーク（批評、批判）して、本論文の実に詳細な読解がなされました。

第二講は「高木豊「持経者の宗教活動」を読む」。

始めに今回精読する論文の著者である高木豊先生の経歴について、学生時代の菊地先生の目標であった高木先生に新宿の中村屋でお会いし、様々なご教示をいただいたことなど、先生ご自身のエピソードを交えてご紹介をいただきました。本論文について菊地先生は、単なる祖師（日蓮）研究ではなく、教団史・法華経文化史・鎌倉仏教史・日本中世史という広がりを持つ論文である、と指摘。また、橋川正・家永三郎・川添昭二らの業績を踏まえて、平安時代における法華信仰の独自の位置づけを目指した論文である、と評価。その論法は、最初に見通しを立てるがそれは仮説に過ぎず、資料と仮説を往還しながら検証を通して進めていく、大胆かつ繊細な論述のスタイルであると説明されました。内容について縷々解説を施しながら、本論文が全五章にわたり一貫して文献に基づいた巧みな論証方法を用いて述べられていることをご説明いただきました。最後に、「日蓮への思想的系譜に注目しながらも、平安時代史の独自性・史料の網羅的蒐集から組み立てられた持経者論として、本論文は単なる個別研究を超えた方法的裏付け

に支えられている。ミクロ（細部・微視）とマクロ（大局・巨視）をうまく結びつけた論文である。」と結ばれました。

第三講は「黒田俊雄「日本宗教史上の「神道」を読む」。本論文は、当時としては珍しく資料を現代語訳しており、研究者のみならず一般の人々に向けて書かれた可能性があること。また、最初に英文で書かれていることから、欧米の学会における神道のイメージを変換する狙いがあったのではないか、との指摘をされました。内容について六章立ての本論文に沿って詳細に読み解いていき、最後に本論文は細部だけでなく、大きな枠組みを示すことによって、これから研究を志す人が領解しやすいように説かれている、と指摘され、今後の課題として「対外交流史研究の進展」、現在も根強く残る「神道非宗教論」とは何か、を挙げられました。

毎回の講座に於いて、最初にご教示をいただいた「学術論文を読む／書く」ための心得に従って論文を丁寧に読み解かれ、毎回豊富な資料をご用意されて、細部に渡り丁寧に説明をいただいております。菊地先生の最新の研究の一端を拝聴する貴重な機会と存じます。今後の講座に於きましても多くの皆様の聴講をお待ちしております。なお、事前にご連絡頂ければ「事前資料の論文」をお送りしますので、事務局までご連絡くださいますようお願い致します。

受講生の声

アンケートからの「意見」

講座についてのアンケートを六〜七月に実施しました。質問事項は先の通りです。なお回答者名につきましては、記名にばらつきがありましたので、今回は無記名で発表させて頂きます。

【質問事項】

- ① 受講されている講座についてのご感想・ご意見をお願いいたします。
- ② 開設してほしい講座のテーマがありましたらお書きください。
- ③ 法華コモンズの「ブログ」と「ツイッター」を「一覧」になりますか？
- ④ 「意見・感想・要望など」、自由にお書きください。
- ⑤

【回答①】

- 『法華経』『法華文句』講座。よい講座だと思います。
- 『法華経』『法華文句』。完了まで受講できるように、生活を整えていきます。

● 菊地先生の講座。毎回の論文学習は各テーマが面白く、たいへん勉強になります。また論文解説がわかりやすく具体的で、日本仏教の各歴史的位置と課題が述べられ、啓発される内容となっています。

● わかりやすく充実した内容です。

● 菊地先生講座。神道史をどの様にみるべきかといふ基本的視座を示して頂き、大変勉強になりました。

● 『観心本尊抄』について、解題、語注、抄私訳の詳細な資料に基づき、総合的に講義頂き、難解な本抄を深く理解する手掛りを得ることができた。

● 大変勉強になっています。教材がすばらしい。

● 初めてなので難しいです。

【回答②】

● 仏教そのものの講義は充実していると思います。かつて日蓮宗西部教化センターが主催した「漢文講座」のような講義、あるいはチベット語の講義とか、サンスクリット・パーリ語の講義とか、そんな内容の講義があったら良いと思います。

● 今で精一杯です。

● 『開目抄』。

● 他宗派・他宗教に関する講座がたまにあれば嬉しいです。正宗系教団の成立史・発展史など。

● 『開目抄』について、本講と同様な講座を開いて頂きたい。

● 本間俊文先生、花野充道先生の興門流に関する講座。

【回答③】

● 念のため受講日が近くなった時はどちらも確認しています。

● 月2〜3回。

● 見ていません。

● ブログ・見ていません。ツイッター・フォロー済みです。

● 週1〜2回。

● 月に1回。

【回答④】

● もう少し広報をやった方がいいと思います。ブログ（公式ウェブサイト）にしる、ツイッターにしる、時々事務連絡をしているだけでは、情報が拡散しません。ウェブサイトは週一回、ツイッターは毎日、事務的内容以外でもいいから更新された方が良いと思います。

● 事務局の方に、お世話様です。

● 年度ごとの講座の書籍化をしていただきたい。

※以上、ご回答のご協力有難うございました。

【法華コモンズ仏教学林 平成31年度後期講座の一覧】

会 場：新宿常円寺「祖師堂地階ホール」 新宿区西新宿 7-12-5 寺務所 ☎03 (3371) 1797

受講料：1期分 12,000円（半年間6回） ※1回のみ聴講は 3,000円

連続講座「法華仏教講座」

※原則 第3土曜日 午後4時～6時

第1回 「遠壽院荒行堂鬼子母尊像 孝明天皇親拝」考	講師：戸田 日晨 …	10月 5日
第2回 慶林坊日隆の一仏二名論について	講師：平島 盛龍 …	11月16日
第3回 興門教学の究明序説	講師：菅原 関道 …	12月21日
第4回 日蓮の専修念仏批判	講師：前川 健一 …	1月18日
第5回 撰折論再考—近現代における論議を通して—	講師：澁澤 光紀 …	2月15日
第6回 中世の日蓮教団と富士信仰	講師：西岡 芳文 …	3月14日

連続講座「これからの天皇制」

※原則 第4木曜日 午後6時30分～8時30分

第1回 天皇制の「これから」をめぐって	講師：菅 孝行 …	10月24日
第2回 「平成流」とは何だったのか	講師：原 武史 …	11月28日
第3回 出雲神話論 祀らざる神の行方	講師：磯前 順一 …	12月26日
第4回 国家神道と神聖天皇制崇敬	講師：島藺 進 …	1月23日
第5回 天皇制の将来	講師：大澤 真幸 …	2月20日
第6回 「象徴天皇」と「人間天皇」の矛盾について	講師：片山 杜秀 …	3月26日

「歴史から考える日本仏教④ 鎌倉仏教史の名著を読む」講師 菊地大樹 先生

※原則 第3火曜日（7月は別） 午後6時30分～8時30分

第1回 上島 享「鎌倉時代の仏教」を読む	10月15日
第2回 家永三郎「日蓮の宗教の成立に関する思想史的考察」を読む	11月19日
第3回 平 雅行「法然の思想構造とその歴史的位罫」を読む	12月17日
第4回 阿部泰郎「女人禁制と推参」を読む	1月21日
第5回 佐藤弘夫「怒る神と救う神」を読む	2月18日
第6回 大塚紀弘「中世「禅律」仏教と「禅教律」十宗観」を読む	3月17日

『法華経』『法華文句』講義

講師 菅野博史 先生

※原則 第4月曜日（7月、9月、10月、2月、3月は別） 午後6時30分～8時30分

第7回 10月21日	第8回 11月25日	第9回 12月23日
第10回 1月27日	第11回 2月17日	第12回 3月30日

《受講申込み》 メールアドレス ⇒ hokkecommons@gmail.com

FAX⇒ 042-627-7227 / ブログ⇒ <https://hokke-commons.jp>

賛助会員一覽(敬称略)

個人会員 ※1口 一万円

6口	柴山 信行	2口	菅野 博史
6口	持田 貫信	1口	佛立研究所
6口	小松 正学	1口	澁澤 光紀
6口	松原 勝英	1口	長谷川正浩
3口	竹内 敬雅	1口	中野 顕昭
3口	匿名希望	1口	匿名希望
2口	西山 英仁	1口	匿名希望
2口	鈴木 正厳		
2口	間宮 啓壬		

法人会員 ※1口 五万円

2口	光厳寺	2口	善龍寺
2口	本國寺	2口	持法寺
2口	公益財団法人 東洋哲学研究所		
1口	大久寺		
1口	摩耶寺		
1口	天龍寺		

(以上)

年間賛助会員加入のお願い

法華コモンズ仏教学林では、本学林の趣旨に賛同

して運営の維持に協力して頂ける「年間会員」を新学期時に募集しています。左記の要領にて、受付けておりますのでぜひご協力のほどお願いいたします。

【年間賛助会員 加入申込みについて】

- 個人会員 一年間1口(1万円)
- 法人・団体会員 一年間1口(5万円)

《お申込み年度の特典》として

- 1、個人会員で6口以上の方には、会員のみ使える年間フリーパス受講証を差し上げます
- 2、法人・団体会員では2口で、誰でも使える年間フリーパス受講証を差し上げます

※「年間フリーパス受講証」は、開設の全ての講座を一年間全て受講することができます。

● 申込み頂ける方は、右の内容を書いて、表紙タイトルまたは7頁下記載のメールアドレス、ファックス、ブログからお申し込み下さい。

★ 個人か法人か、また何口かを明記する。

★ 名前、年齢、住所、電話、ファックスまたメールアドレスを明記する。

● 直接にご加入・ご支援を頂ける方は、郵便振込用紙にて通信欄に口数をご明記の上、左記の口座をご利用ください。

□ 座名 … 法華コモンズ仏教学林
□ 座番号 … 015007-634712

「講座映像版」販売のお知らせ

「講座映像版」第一弾につづき、左記の通り第二弾、第三弾が続けて発売されました。

○ 菊地大樹先生 「吾妻鏡」と鎌倉仏教」

○ 池上要靖先生 「初期仏教研究」

○ 菊地大樹先生 「歴史から考える日本仏教①」

この講座映像は、次のとおり「ダウンロード版」と「DVD版」の二通りの方法で購入できます。

◎ダウンロード版：価格12,000円(消費税込)

全6回講義の動画ファイルとレジューMPDF

◎DVD版：価格12,500円(消費税・送料込)

全6回講義のDVD6枚組とレジュー印刷物

この詳細につきましては、法華コモンズのブログ(<https://hokke-commons.jp>)をご参照ください。ご購入は、ブログまたは開講時の受付にてお申し込み下さい。

法華コモンズ通信 第3号

○ 発行日 令和元年8月1日

○ 編集発行 法華コモンズ仏教学林

○ 発行所 法華コモンズ仏教学林 事務局

一九二〇〇五一 東京都八王子市元本郷町一ー九
Fax 〇四二一六二七七二二七